

病院だより

Vol.8 2011 冬号
2011年1月1日発行

ココロとカラダのメディカル通信

〒336-0931 さいたま市緑区原山3-15-31 TEL:048-882-2867 FAX:048-882-2887 URL: <http://www.kyosai-hosp.or.jp/> 発行人: 星野 徹近未来
フィクション

平成関東大震災発生

博仁会共済病院理事長 星野 徹

その夜、当直勤務にあたっていた星野は、救急外来で熱とだるさを訴えて受診した男性患者の診療中であつた。「のどを診ましょう」と男性の口の中をのぞきこんだその時、星野はめまいに似た感覚を覚えた。それがめまいではなく地震であると気付いた直後、体がコントロール出来ない激しい揺れに翻弄された。明かりが消え暗闇の中、建物の悲鳴のような不気味なきしみ音が大きく響いた。

20XX年、X月X日、いつか起こるといわれていた、相模トラフを震源域とするマグニチュード7を超える南関東直下地震（平成関東大震災）が遂に発生したのだ。さいたまもこの地震により甚大な被害を受けた。さいたま市立病院、自治医大さいたま医療センター、さいたま市民医療センターなどの基幹病院が直ちに緊急医療体制を立ち上げ、続々と押し寄せるけが人の治療を開始するなか、傷を負い、助けを求めて共済病院を目指した浦和東部地区の人々がたどりつき見たものは…。砂ほこりが舞うがれきの山であつた。

星野はがれきの下で息絶えていた。共済病院でその夜その時受診さえしなければ命を失うこともなかったであろう救急患者と共に。病院はかろうじて全壊を免れてはいたが、入院患者と勤務中の職員の多くが命を落とした。人工呼吸器で治療中の患者は呼吸器が止まり、苦しみがきながら絶命した。病院としての機能はもはや失われていた。埼玉社会保険病院、さいたま日赤病院も老朽化した建物が大きな被害を受け、さいたま市中心部の医療は文字通り

壊滅状態となつた。そして、医療が受けられさえすれば助かつたかも知れない多くのさいたま市民の命が失われた。

（以上はフィクションであり名称などは架空のもので実在のものとは関係ありません）

このような最悪の事態が現実のものにならぬよう、共済病院では病院の全面建て替え耐震化事業を進めております。今年3月からいよいよ病院東側部分の解体工事が始まる予定です。来年の秋には、新築完成した建物での診療が開始となり、残りの部分の解体と外構などを含めすべての工事が完了するのは約2年後の予定です。新しい病院は耐震構造で、大きな地震が発生しても安全が確保され、診療機能が維持され、患者さんや地域の皆さまを守り支えることが出来ます。診療を続けながらの難工事で、病院を利用される皆さまには騒音、振動、日照、駐車場確保など、いろいろな面でご迷惑をお掛けすることになります。工事期間中は安全を第一にしつつ、できるだけ不自由、ご迷惑をお掛けしないように取り組んで参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

そして新生共済病院にどうぞご期待を。

非常勤(内科) 医師ご紹介

しろひこ 守
白石 守平成18年(2006)
山形大学 卒自治医科大学
さいたま医療センター
呼吸器科 勤務
日本内科学会認定医

金

共済病院 看護部の ご紹介

当院の看護部は、看護師54名、看護補助者33名の合わせて87名のスタッフが、外来、一般病棟である第1病棟と医療療養型療養病棟の第2病棟に配置されています。

一般病棟は、内科と外科の混合病床であり、今年度より10対1の看護体制をとっています。外科は主に消化器系の手術・治療、内科は肺炎や脳血管疾患、心疾患等の急性期から亜急性期の患者さんが入院されています。

療養病床は、急性期を脱した患者さんが、自宅や施設などへ帰られる前のリハビリや療養の場となっています。

私たち看護部は、「地域の皆様に安心できる心のこもった看護を提供すること」を基本理念として、思いやりのある温かい看護を提供することを日々心がけています。

外来

当院は、内科・外科そして10科の専門外来と、救急部門・検診部門を設置しており、私達はこの外来と、内視鏡室及び手術室を担当しています。

現在、検診部門では、さいたま市の健康診断と人間ドックを実施しており、特に市の検診はすべての項目を受けて頂けることから、多くの方に受診して頂いております

私達は、外来・検診・検査など、さまざまな場面でお会いする患者さん・ご家族に、安全で安心した診療や看護を受けて頂けるように、ベテランから新人までの幅広い年代のスタッフが、お互いに刺激しあいながら、個々のスキルを磨いていくよう努めています。

今後はさらに、皆様の最も身近な看護の提供者として、それぞれの方に応じた配慮した対応ができる事を目指し、当院が地域の皆様により身近な病院となれるよう努力していきたいと思っております。



第1病棟

48床の内科、外科、婦人科の混合病棟です。

人生の中で辛い時間を過ごされている患者様に対し、安全・安楽・安心していただけるよう、患者様の心に目を向けて看護サービスを提供し、地域の皆様が安心して入院できる病棟を目指しています。

対象疾患は、消化器系の手術等の急性期のみならず、癌の末期、高齢者、認知症にも対応可能で、理学療法士（PT）、言語聴覚士（ST）、管理栄養士等の他職種とも連携を取りながらリハビリもこなっています。

また、医療連携にも力を入れており、急性期の大病院からの転院、施設や在宅からの受け入れにも日々対応しています。

病棟スタッフは、子育て世代の30代、経験豊富な40代が中心で、明るく元気なスタッフが多く、チームワーク抜群の活気ある病棟です。

いつも笑顔で、思いやりのある看護を実践するために日々頑張っています。



勉強会の様子

より質の高い看護を提供できるように、定期的に勉強会を開いています。



多職種カンファレンスの様子

他の職種と連携し、患者さんひとりひとりに、適切な看護を提供できるように取り組んでいます。



新人教育の様子

「くり返し質問しても、何度でもやさしく教えて下さるスタッフの皆様に感謝しています。」



第2病棟

第2病棟は、医療療養型50床の病棟です。脳血管疾患などで長期の療養やリハビリの必要な患者さんが多く入院されています。私達は、患者さんに安全で快適な療養生活を送っていただけることや、退院までのリハビリの期間を充実したものにすることを目指して、日々看護を行っています。

スタッフは、家庭を持っている方がほとんどであり、家庭的で和やかな雰囲気職場です。

スタッフは、家庭を持っている方がほとんどであり、家庭的で和やかな雰囲気職場です。

